

ISS・きぼうマンズリーニュース

International Space Station (ISS) / Japanese Experiment Module "Kibo" Monthly News: Vol. 2

今年度から装い新たにISS・きぼうマンズリーニュースとしてホットな話題をお届けします。引き続きご愛読よろしくお願ひします。



第36/37次のバックアップクルーである、若田光一、ミハイル・チューリン、リチャード・マストラキオ宇宙飛行士、第36/37次長期滞在クルーのカレン・ナイバーク、フョードル・ユールチキン、ルカ・パルミターノ宇宙飛行士（左から）



現在ISSに滞在中の第36次長期滞在クルー



コロリョフ博物館のソユーズロケット模型の前に立つ、ミハイル・チューリン、若田光一、リチャード・マストラキオ宇宙飛行士（左から）

トピックス

第36/37次長期滞在クルー打上げ迫る

●若田宇宙飛行士はバックアップクルーとして活動

ソユーズ宇宙船（35S）で飛行する第36次/第37次長期滞在クルーのバックアップクルー（交代要員）に任命されている若田光一宇宙飛行士は、5月29日のソユーズ宇宙船打上げ直前まで、バックアップクルーとしての任務に就きます。

5月16日、35Sのプライムクルーと若田宇宙飛行士らバックアップクルーは、ロシアのガガーリン宇宙飛行士訓練センター（Gagarin Cosmonaut Training Center: GCTC）から、ソユーズ宇宙船の射場があるカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地に移動しました。

バイコヌール宇宙基地では、ソユーズ宇宙船の通信システムに関わる訓練や、手順書や飛行計画の確認、ISSロシアモジュールの安全に関わるブリーフィング、組立工場内にてソユーズ宇宙船実機の確認など、最終的な打上げ準備も行いました。

5月29日午前5時31分に35Sクルーを乗せたソユーズ宇宙船が打ち上げられる予定です。若田宇宙飛行士は、打上げの約3時間前にバックアップクルーの任務が解除され、今年秋のISS長期滞在に向け訓練を継続していきます。



第36/37次のバックアップクルーである、若田光一、ミハイル・チューリン、リチャード・マストラキオ宇宙飛行士（左から）

●日伊宇宙協力最前線開催レポート

5月15日、東京都千代田区のイタリア文化会館アネヅリホールで、日伊協カイベント「日本とイタリア、宇宙協力最前線」が行われました。本イベントは、在日イタリア大使館が主

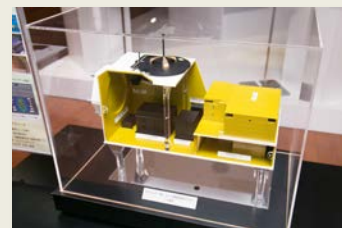
催する「日本におけるイタリア2013」事業の科学・技術分野におけるイベントのひとつとして開催され、会場は一般の参加者も含め満員となりました。イベントでは、イタリアの宇宙開発の歴史、ロシア側を除く与圧モジュールで約50%を開発・製造しているというISSへの貢献、イタリア主導で開発しているVEGAロケット、イタリア人の宇宙飛行士などが紹介され、イタリアの宇宙開発が盛んであることを伺わせました。

現在進められている日本とイタリアの協力の代表例として、開発中の宇宙線観測装置「高エネルギー電子、ガンマ線観測装置」（CALorimetric Electron Telescope: CALET）について、代表研究者の早稲田大学理工学術院の鳥居祥二教授より実験概要が紹介されました。

CALETは、2014年度に宇宙ステーション補給機「こうのとり」5号機（HTV5）で打ち上げられる予定です。

イベントには、野口聡一宇宙飛行士、イタリアのロベルト・ヴィットーリ宇宙飛行士も登壇し、ふたりの宇宙飛行や訓練を通して培った貴重な話が繰り広げられました。

「次に宇宙に行くとしたら」などの質問にはそれぞれの個性的なアイデアが寄せられ、参加者は興味深く聞き入っていました。



ロビーに展示されたCALETの模型



ヴィットーリ、野口両宇宙飛行士

「こうのとりの」4号機 (HTV4) この夏打上げ

宇宙ステーション補給機「こうのとりの」4号機 (HTV4) は、2013年8月4日午前4時48分頃、種子島宇宙センターからH-IIBロケット4号機で打ち上げられる予定です。現在、種子島宇宙センターにて打上げに向けた整備中です。

HTV1~3号機のハイライトを写真で紹介します。



「こうのとりの」2号機 (HTV2)

打上げ：2011年1月22日 大気圏突入：2011年3月30日

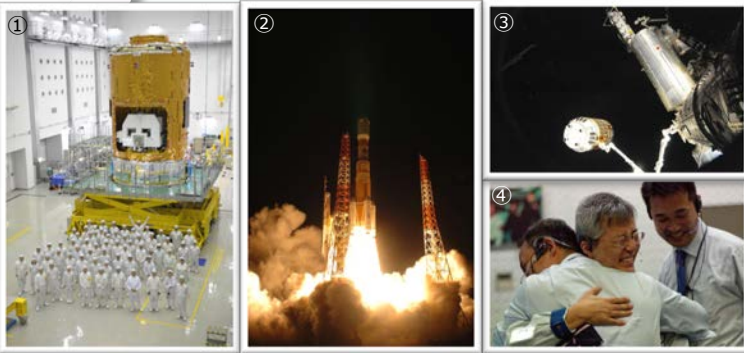
- ①第26次/第27次長期滞在クルーと折鶴
- ②補給キャリア非与圧部から取り出される曝露パレット



「こうのとりの」3号機 (HTV3)

打上げ：2012年7月21日 大気圏突入：2012年9月14日

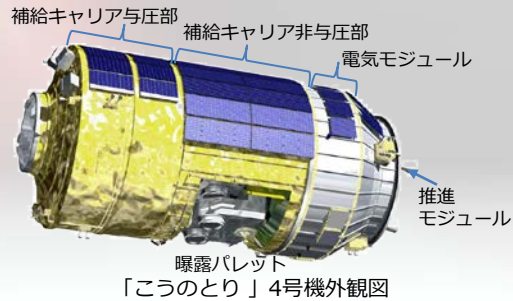
- ①HTV3と地球の夜景 ②再突入データ収集装置 (i-Ball)
- ③ミッション終了後、HTV運用管制室に集まった関係者



宇宙ステーション補給機 (HTV1) 技術実証機

打上げ：2009年9月11日 大気圏突入：2009年11月2日

- ①全機結合された技術実証機と組立て作業員 ②H-IIB#1/HTV1打上げ
- ③ISSのロボットアーム (SSRMS) で把持した瞬間
- ④把持に成功し喜び合う、山中 (左)、麻生 (中央) HTVフライトディレクター



今月の国際宇宙ステーション

最初のISS 構成要素打上げから5297日経過

ソユーズ宇宙船 (33S) 帰還

第34次/第35次長期滞在クルーとしてISSに滞在していたクリス・ハドフィールド、トーマス・マッシュバーン、ロマン・ロマネンコ宇宙飛行士の3名を乗せたソユーズ宇宙船 (33S) は、5月14日午前11時31分にカザフスタン共和国に着陸しました。3名のISS滞在日数は144日、宇宙滞在日数は146日でした。

33S帰還に先立ち、5月13日には、第35次長期滞在のコマンダーを務めたハドフィールド宇宙飛行士から、第36次長期滞在のコマンダーとなるピノグラドフ宇宙飛行士にISSの指揮権を移譲するセレモニーが行われました。

Expedition 36 Crew

ISS滞在54日経過

- パベル・ピノグラドフ (ロシア)
- クリストファー・キャシディ (NASA)
- アレクサンダー・ミシュルキン (ロシア)



第34/35次長期滞在クルーを乗せたソユーズ宇宙船 (33S) の帰還 (日本時間5月14日午前11時31分)

インフォメーション

JAXAの歩き方~公開データのウェブサイトカタログ

JAXAが公開している観測データや画像/映像など様々な情報に辿り着き易くするためのウェブサイトカタログを公開しました。このカタログを利用して、ぜひJAXAが提供するデータをご活用下さい。▶JAXAの歩き方 http://www.jaxa.jp/archives/db/tebiki_j.html

「きぼう」を見ようコンテンツがご覧になれずご迷惑をおかけしています。

現在、サーバメンテナンス中のため、「きぼう」を見ようと、写真や映像の一部を閲覧することができません。現時点でサービス再開時期が未定となっております。

ご迷惑をおかけしますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

なお、ISSの可視予想情報は、次のサイトでも確認することができます。

Human Space Flight (HSF) -Realtime Data (NASA)

<http://spaceflight.nasa.gov/realdata/sightings/>

左手の列のプルダウンメニューから、Japanを選択してGoをクリックすると、主な日本の都市を選択するページに移動します。

HeavensAbove (DLR)

<http://www.heavens-above.com/>

Configurationで観測地を設定した後、Satellitesから10day predictions for:に続くISSをクリックしてください。



JAXAの歩き方 (PDF39MB)

ISS・きぼうマンスリーニュース 第2号

問い合わせ先：宇宙航空研究開発機構 きぼう利用推進室

ホームページ <http://iss.jaxa.jp/> お問い合わせ <http://ssl.tksc.jaxa.jp/iss/help/>

マンスリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.jaxa.jp/monthly/>

※ 特に断りない限り日付けは日本時間です。

※ 「ISS・きぼうマンスリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本マンスリーニュースから転載した旨をご記述ください。

